KGA

'87冬季号
昭和62年12月1日発行

No.21

目次

理事長インタビュー……………………………1
那須ゴルフ倶楽部理事長　山崎　國男
昭和62年度関東シニアゴルフ選手権決勝競技　……4
観戦記　宮元　昭雄
コラム・芝草物語……………………………6
昭和62年度関東グランド・シニアゴルフ選手権競技　8
観戦記　片山　晴美
委員長インタビュー……………………………11
グリーン委員長　古賀　始
ゴルフQ&A……………………………14
新規加盟倶楽部紹介……………………………16
理事会・委員会　……………………………18
月例競技成績表(昭和62年9月・10月)、お知らせ　……24

表紙Photo　嵐山カントリークラブ

関東ゴルフ連盟

宮様も会員も裸のつきあい
――真のゴルフ倶楽部を目指して――

那須ゴルフ倶楽部理事長　山崎　國男
聞き手・KGA広報委員　笠原　貞夫

――那須ゴルフ倶楽部は昭和11年にオープンし、昨年50周年を迎えた、現在日本を代表するリゾート・コースですが、コースを造る動機は付近の別荘地を分譲促進するために、ゴルフ倶楽部を設置したと聞いておりますが。

昭和7、8年ごろ、御用邸近くの温泉付別荘地、「近光荘」を所有していた、那須温泉土地株式会社の専務龍瑞嘉蔵氏が、別荘地販売促進のため、当時、勧銀副総裁（のち総裁）の石井光雄氏（初代理事長）に格別の尽力を依頼し、これがもとでゴルフ場の建設が具体化した。

実際には種々の困難な経緯がありましたが、昭和10年10月30日、那須ゴルフ株式会社（社長成瀬隆蔵氏）と、同ゴルフ倶楽部（理事長石井光雄氏）が誕生いたしました。ゴルフ場造成工事は同年1月4日、コース鍬入れ式を行ったのですが、冬期間工事ができないのと、大岩石をダイナマイトで爆破して整備する箇所が多く、その上芝付もむずかしく、東京近在のゴルフ場建設に比べ数倍の苦心と費用を要したとのことであります。ようやく昭和11年7月5日に、李王両殿下のお出でを仰ぎ、始球式を願い、現在のイン9ホールスの開場式が行われ、ついで昭和12年7月10日に約3年がかりで現在のアウト9ホールも完成いたしました。

――当初の会員は付近の別荘のオーナーが中心でしたが、現在でもこの二世の方々が多く、代替りしたメンバーとなっているようですが。

この二世の方々は幼少のころより、夏はこの倶楽部で遊び育った方が多く、若いころからのお馴染みさんで、倶楽部内はアットホームな雰囲気に満ちて

おり、このことは他の一般の会員にも浸透しており、今後もこの良い伝統を維持して行きたいと念願しております。

――コースの設計は、有名な井上誠一氏の若いころの作品ですね。

霞ケ関カンツリー倶楽部の創立者、藤田欽哉氏の指導のもとに、霞ケ関東西両コースの改造に現場監督として功のあった井上誠一氏に一切をまかせ、氏の処女作となったものです。

井上さんは、当時この地にクラブハウスを最初に建てて、ここに寝泊りして陣頭指揮で作業を監督されたとのことです。

ここの地形は標高差、140mもあって、当時はブルドーザー、パワーショベル等も無く、全くの手作りのコースで大変な難工事であったと思われます。

付近の地形並びに気候に合わせた景色の良いコー

スて、春は若葉、つつじ、夏は野の草花が咲き、秋は紅葉が映える本当に美しいリゾート・コースが出来上がりました。

――コースを造成した当時のフェアウエイは、都市近郊のゴルフコースと同様にフェアウエイ、ラフは高麗芝を、パッティンググリーンはベントを採用された様ですが、那須ゴルフ倶楽部独特の〝すずめのかたびら。に切替えたのは。

〝すずめのかたびら〟は大体昭和27、28年ごろから7番フロントティに最初にみられたとのことです。

その後次第に繁茂して来て、現在の状態となったわけであります。この草は、元来は一年草なのですが、冷涼な気候風土に良く合っているためか多年草となって、他の地方のものより丈が低く葉が細く密生しています。〝那須ベント〟と呼ばれることがありますがベントとは植物的に違いますので、〝那須ブルーグラス〟と呼ぶべきだと思います。

美しい緑色で感触も良く、那須ゴルフ倶楽部のコースの芝として名物となりました。

――春に霧の日が多く、プレーが困難の日がありますが。

そのために各ホールのティグランドには、グリーンの方向を示す矢印と、ショートホールにはグリーンのホールの位置、TODAY'S、FLAG、とを掲示板で示し、ピンの位置が分かるように手配してあります。

それにここのキャディーさんは良く訓練されており、ここのコースの状態を良く承知していて、プレーヤーの打ったボールの落ちた位置も、霧の中でも良く見付けることが出来るのです。

――那須ゴルフ倶楽部は、常陸宮正仁親王殿下、並びに妃殿下が時々プレーなされており、接待、警備の面でも気苦労がお有りのことと思われますが。

倶楽部としては若干の気はつかっておりますが、両殿下もメンバーのお一人として、気楽にプレーされておられます。

プレーなされてからは、殿下は他のメンバーとご一緒に、温泉にもお入りになります。

倶楽部では常陸宮殿下よりカップを御下賜戴き、名誉ある常陸宮杯競技として、男女交互にプレーするミックス競技を開催いたしております。もちろん両殿下もご出場なされておられます。

――他に当倶楽部での独特の催し物は。

昨年満50周年記念のパーティを、三日にわけて盛大にやりました。約400名のメンバーが出席されました。

また、毎年恒例として10月の第3日曜日と、第4日曜日に紅葉杯競技を催します。16番の茶屋に紅白の幕を張り、おでん、燗酒、しるこ等を出して、メンバー同士で熱燗を飲み、観楓の会を開いてゴルフ談議に花を咲かせ、心から楽しんでおります。

また、シーズンの最終競技のサヨナラ杯当日は、しばしの別れを惜しむ那須ゴルフ倶楽部独特のもので、全員揃って〝螢の光〟を合唱し、来年再び健在で再会し、プレーできることを願うわけであります。

――昔は天長節にオープンし、明治節にクローズしておりましたね。今も降雪期間はコースを休ませておりますが、この冬の期間のコースの維持管理、従業員の配置転換等は。

主任以上の役職者と、事務関係者と、それにグリーンキーパー他4名のコースの従業員は、出勤しております。

事務関係者はこの期間でも会報、会計、名簿の整理、発行等の事務的な仕事があり、コースの従業員は、雪の被害による樹木の防護、来年のオープンに備えてコースの整備等、案外仕事があるようです。コックさん達は冬場スキー場等に働きに行く人もいるようです。ただキャディーさんはこの期間仕事が無いため、失業保険でカバーされております。

――オープンした当時から支那事変が始まり、その後太平洋戦争が勃発してコースは閉鎖されましたが、ここのコースは、戦後の復旧は比較的に早く再開されたようですが。

インは戦時中陸軍の療養所付属の耕作修練場に徴用されて、23年までプレー出来ませんでしたが、アウトは21年の夏よりプレー出来ました。

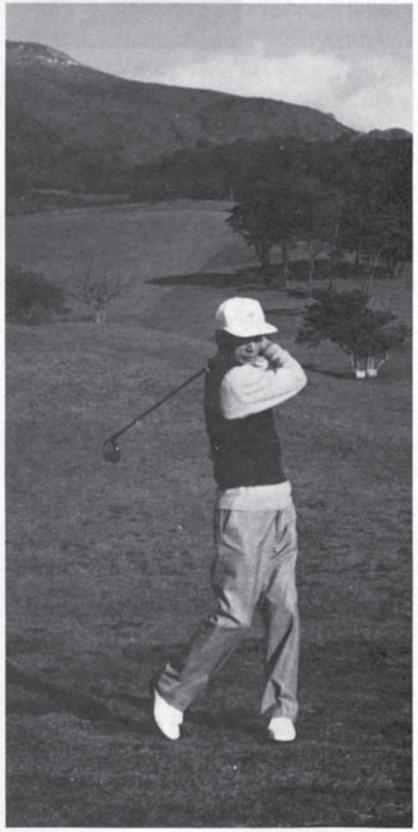
都市近郊のゴルフコースは戦時中は畑にされたりして、ゴルフ場としての復興が遅かったが、那須ゴルフコースは、ほぼ原型のまま閉鎖されてあったため、コースの復旧は比較的に早く昭和24年の春からは18ホールズ、オープン出来ました。

コースの復興を早めたことに一人の功労者がおります。コックの太田さんで、この人は元ロサンゼルスにいたこともあり、料理も上手でしたが英語が堪能で、そこで宇都宮の進駐軍に出掛け〝那須ゴルフ倶楽部でゴルフをやらせるから、その代わりにガソリンをくれ〟と交渉し、兵隊がプレーに来るたびにガソリンを持って来てもらい、このガソリンで機械力を使ってコースの整備が出来たのでオープンが早かったわけです。

――今那須ゴルフ倶楽部のメンバーになるには。

ほぼ3年間隔で、メンバーの補充として募集しております。

前回は正会員500万円、平日会員250万円でした。ただし継承権はありません。一代限りです。この倶楽部には法人会員制度はありません。



――社団法人のゴルフ倶楽部としては最後の倶楽部ですね。

当倶楽部はゴルフの大衆化、保健、観光及び地域社会の開発、地元住民の雇傭等の公益的、公共的目的を遂行するため、社団法人として、営利を目的にしないゴルフ倶楽部として、昭和34年8月1日付で認可されました。

冬期間はスキー場として無料開放しており、付近住民の憩いの場となっています。

――理事長が那須ゴルフ倶楽部にご入会されたいきさつは。

昭和32年ごろ、東京電力の支店長として宇都宮に在住しておりました当時、栃木県のゴルフコースは那須と日光の二カ所より無く、また、ゴルフを始めたばかりで大変興味があったので、ここのコースは度々利用させていただいておりました。

また、東京に戻ってから、霞ヶ関に入会させていただきましたが、霞ヶ関のメンバーも那須の会員が多く、同倶楽部に入会するよう度々勧誘されましたので入会したわけであります。

――那須ゴルフ倶楽部の第8代の理事長として今後のご方針は。

那須ゴルフ倶楽部の特色は、ロッジに泊まって温泉に入って、浴衣がけで食堂でみんなと楽しく食事をし、翌日は仲間とプレーする。メンバー全員が家族という、いわゆるアットホーム的な雰囲気であるということです。この気風は今後も残して行きたいと思っております。

また、私はこの二月に選任された新米理事長で、歴代にわたって名理事長であった安田一さん、松本重男さん、岩本勇さんの後任として、その職務を円滑に果たすことが出来ないのではないかと強い危惧の念に堪えないところでございますが、半世紀の永きにわたって多くの大先輩により培われてきた立派な倶楽部の伝統と歴史を保持しながらも、来るべき21世紀を目指して魅力のある、しかも楽しい倶楽部づくりに、諸先輩、メンバー、従業員の方々のご指導、ご協力を得ながら全力投球をしていく所存でございます。

――いろいろと有難うございました。

昭和62年度 関東シニアゴルフ選手権決勝競技

●開催期日 昭和62年9月29日(火)・30日(水)
36ホール・ストローク・プレー
●開催コース 嵐山カントリークラブ（全長6,508ヤード パー72）

観戦記／KGA広報委員 宮元昭雄

山口梅吉選手、堂々4度目の優勝

緑に包まれた武蔵野の丘陵に、白球が糸を引くように遠く流れてゆく。「飛ぶなあー、そのクラブは」「いや腕だよ、腕」いづれ劣らぬ強者揃いの関東シニア選手権。上位を争うのはいつも決った面々だがスタート前の賑いはひとしきり騒々しい。「今年はいただくぞ」「そうは問屋が卸さんよ」と、この日に備えて精進して足や腰を鍛えてきたとばかり各選手の意気込みも舌戦を交えて大変なものだ。

予選を通過してこの決勝の本戦に望んだ140名（シード選手10名を含む）が、2日間に亘る36ホールで62年度関東シニアのチャンピオンを決めるのだ。

舞台は申し分なく整っていた。シニアには多少、酷かも知れないと思われるグリーン周りのラフの伸び具合、背高く伸びた樹木の重圧が、狭いフェアーウェーをより一層攻略を難しく見せる。高麗グリーンの速さも手伝って、各選手も思ったようにスコアの伸びが見られない。それだけにコースの難易度が高い条件下での試合展開となったといえよう。

第一日目が終ってトップに躍り出たのは本命視されていた岡野幸男(日高)。前年度箱根カントリーでは雨中での熱戦を勝ち抜き今年その二年連続に闘志を燃やしている。そして同じく首位にダーク・ホースと目される永井正彦（朝霧ジャンボリー）が並び、ベテラン山口梅吉（横浜）が2差で3位、4位タイに首位から3差で鈴木勝二（GMG八王子)、倉田金造（藤ケ谷)、吉沢友七（東京よみうり）と続いた。

昨年2位の芝入後雄(姉ケ崎)、同4位の平本正美（長竹）は伸びず、60年度の覇者新井邦史（熊谷)、同2位の中山泉(戸塚)、そして常時上位にくい込んでいる浜野賢（レインボー)、朝井和也（狭山）らもいま一歩だ。予選ラウンドでのメダリストだった、山田真早志(鷹之台)と平山信一（青梅）も大きく崩れて苦戦。「グリーンがむづかしくて打てないよ」と殆んどの選手がその攻略に手こずっていたようだ。

ちなみに各選手のスコア・カードをのぞいて見ると、バーディは極端に少なく、大半の選手がボギーやダブル・ボギーを連発して崩れていた。その内容はパットミスというより芝芽を読み切れないというか、グリーンに眩惑されたのが原因のようだ。

二日間とも曇天。しかし、二日目は時折薄日も射し込むゴルフ日和り。優勝の行方は混沌としているものの、よほどのアクシデントがない限り、僅差のまま上位4～5名の中で争われるだろうとは、ギャラリーの一致した見方だった。

初参加の永井、「10位以内が目標だから」といいながらも、〝初参加は勝てない〟というジンクスに挑戦する意欲は充分だ。

岡野には二連覇の夢がかかっていた。「今日で4日連続だよ。体が持つかどうか心配」といいながらも、理事長杯に勝ち関東月例をこなし、その余勢をかっての二連覇のチャンスを目前に、熱い闘志が燃えているに違いない。最終組を回るもう一人は山口だ。アーノルド・パーマーばりの豪快なスイングを売りものに闘志満々。すでにこの関東シニアで過去3回も優勝しており〝シニアの記録を塗り変えたい〟とその執念は強烈だ。年齢を感じさせない力強いショットは多数のギャラリーを驚嘆させていた。三者のせり合いが最後まで続き、見ごたえのある熱闘であった。

山口選手の豪快なティーショット

永井健闘・大魚を逸す

試合の展開は、スタートホールから暗雲がたちこめたように縺れ始めた。1・2打とバンカーに入れて苦戦のスタートを思わせた永井が、4㍍の下りパットを入れてパーをセーブ。2オンに成功していた山口と岡野、山口が3㍍のパットをねじ込んでパーをセーブしたまではよかったが、岡野は1㍍のパットを逃してボギーとし、早くも永井が1差リード。

続く2番のショート・ホールでは、永井は手堅くパーをセーブ。バンカーから1.5㍍に寄せた岡野だが、同じライン上にあった山口が約6㍍のパットを決めてバーディと先行。これを見た岡野が1番に引き続きパットをミスして後退。この勝点で山口はトップに躍り出た。その後、一進一退が続いたが岡野が9番をバーディとして通算十7とし永井と並び、1差で山口を追う形で後半へ折り返した。

「2人のプロの中にアマが入っているようだ」、と永井が先輩に水を向ければ、「飛ぶだけならトンボや蝶と一緒だよ。どうもパットがいかん」とドライバーの飛距離では、一頭地を抜けていた岡野がパットの不調に泣く。

「あと9ホールあるぞ」と周囲の激励に「うん、やってくるよ」といえば、傍らの山口は「勝負はこれからだよ」にさり気なく気遣いながらも、「昨日はパットがダメだった、少し練習してこよう」と昼食もほどほどに練習場に走る。

「2番のバーディで気持ちが楽になった」という山口に余裕が見られる。「成層圏を飛ばさないことには若い人に置いて行かれるから」とお得意の3段ティ（高さ約12㌢）での妙技（?）でますます快調そのもの。ギャラリーの間からは「大丈夫かな!?」と囁やかれる始末。シニアの打球とは思えない鋭い弾道だ。

トップの山口を追う岡野、永井の顔が厳しい。後半戦は一喜一憂の熾烈な戦いとなった。11番で山口が3パットしてた者が一線に並んだ。岡野の反撃が期待された矢先の山口のポカ、永井はこの両者のカケヒキの間隙を縫って、手堅くパーセーブを続ける。

12番、ここが勝負とみた岡野の第一打にこれまでになく力が入る。打球は大きく左に割れて林の中に消え、木の下から出すだけという不運。2オンして余裕を見せる山口。岡野の第3打はグリーンオーバーそしてアプローチ・ミスでダブルボギーと絶体絶命のピンチに立たされた。ここまでピーンと張りつめていた緊張の糸が切れたのか、後半はズルズルとボギーを連発して後退してしまった。

永井はグリーンをとらえられない苦戦が続いたが、なんとかワン・パットで切り抜けるという必死の食い下がりを見せ、15・16番と逆に山口を押えて、17番で首位タイに並ぶというシーンゲーム。俄然優勝の行方は最終18番に持ち越された。山口、永井両者の一騎打ちだ。

18番516㍎・パー5、左下りの1打に対して2、3打目はやや左曲りの打ち上げのロング・ホール、左サイドはO・Bがあり殆んどの選手が第一打を右めに打ち出して行くが、ラフが深く決してベターではない。

永井は右めに安全圏を狙って打ったもののラフ。そして2打目で大きく左に引っかけてしまった。一方山口は一打が左に。〝アッ!〟と声を出すほどきわどい打球だったが、ラフに救われて危うくO・Bをまぬがれていた。このあたりで自らの強運を信じたのかも知れない。3打目を打ち易い所に出した山口に対し、永井の方はグリーンを狙うには前方の大きな木がスタイミーになり、ラフからの打ち上げと重なって遙かに不利な条件だった。クラブの選択に手間

左より岡野、永井、山口選手

取った永井の3打目は、大きく右にそれてグリーン右手前7㍍のラフにとまった。一方山口は鮮やかにピン手前6㍍につけ余裕を見せた。

永井のアプローチいかんで、勝負の決着がつく。「ラフからのころがりを考えて打った」球はピン手前3㍍にシュートした。息詰る両者のカケヒキが始まる。山口のラインはややスライス・ライン。「真直ぐ打った」白球はカップのど真中から消えて、この瞬間山口の勝利が決まった。

67歳の超ベテラン山口が、並み居る強豪をなで切った瞬間だ。「強い」ギャラリーからの声が緑の空間を走った。〝初参加は勝てない〟というジンクスはまたも破れなかったのだ。今年15名のシニアが加わった大会、70歳以上が決勝に残ったのは5名、平均年齢は63歳。4回目の優勝を飾った山口はこの7年間2位以下に落ちたことがない。シニアでは超弩級の技量の持主といわれるが、同時に60歳はまだまだ青年だという印象を強く感じた試合の内容だった。

45位タイの50名が10月14—15日相模原ゴルフ倶楽部で行われる、日本シニア選手権に出場する参加資格を得たが、「関西には絶対にタイトルは獲らせんぞ」と早くも日本シニアに向けて意気軒昂、その山口の気概に改めて期待しよう。

予選メダリスト

第1ブロック（成田） 山田真早志 72 （159名参加）

第2ブロック（青梅） 平山 信一 73 （165名参加）

コラム・芝草物語④

ときには雑草を愛でよう

KGAグリーン委員長
古賀 始

ゴルフ場には雑草がたくさん生育しています。管理者はこの除去に腐心し、立派な芝草を育て快適なコースを提供する様努力しています。

雑草の除去、処理方法等については、専門的になりますので省きますが、今回は雑草の立場から一言申し上げます。

一口に雑草と蔑まれていますが、雑草にしてみればそれぞれ立派な名前を持っております。そして土壌、温度、湿度、日照等適地を選び、また春、夏、冬型、一年生、多年生に分れ、一年中発芽、成長、開花、結実と自然界の中で永遠に生き残るべく絶えず進化、変異を繰返しつつ頑張っているのです。

ゴルフ場は雑草にとって、どこからでも、いつでも出入出来る、いわば一時の自由の国アメリカみたいなところといえましょう。出入の手段としては、風、雨水、また動物、人間、特にプレーヤーのスパイク等により、近くから、また遠方より昼夜の別なく一年中絶えることはありません。また造成中、機材、芝そのものについて侵入するし、造成前の先住の種が相当年数経っても発芽する場合もあります。

しかし芝が強く、密生しているとそれ等の種は着地出来なかったり、着地出来ても乾燥したり、日光が不足したりで発芽することはむずかしくなります。

それに刈込みにより、直立性のものは亡びます（匍匐性のものは残る）。その為にフェアウェイには、比較的に雑草は少ないのです。フェアウェイで春先に目立つのがスズメノカタビラです。管理者だけでは、目も手もとどかないので、プレイヤーにも気にかけていただきたいものです。

しかし雑草といえども生きもの、神から授けられた生命、種族の維持に懸命です。考えてみればコースに芽生えた雑草は不運なのです。堪忍してくれ、と言う気持でその生命を絶たねばならぬのが管理者なのです。

ラフでは、四季夫々に可憐な花をつけた草々に出会うことができます。すみれ、あやめ、たんぽぽ、つゆぐさ、ひるがお、りんどう、せんぶり、あざみ等がひっそりと、あるいはけなげに咲いています。

これらの草々を愛でることのできるのは、いわば、ラフに打ち込むことの多いアマチュアゴルファーの特権といえましょう。

どうぞプレイヤーの皆さん、雑草とも、たまにはお付合い下さい。

昭和62年度 関東シニアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者 125名 9月29日（火）・30日（水） 於：嵐山カントリークラブ

順位	氏名	所属	第1ラウンド アウト	イン	計	第2ラウンド アウト	イン	計	合計
優勝	山口梅吉	横浜	40	38	78	36	38	74	152
2	永井正彦	朝霧ジャンボリー	38	38	76	39	39	78	154
3	鈴木勝二	GMG八王子	41	38	79	39	38	77	156
3	倉田金造	藤ヶ谷	39	40	79	40	37	77	156
5	岡野幸男	日高	37	39	76	39	42	81	157
6	大倉京斗	我孫子	40	40	80	39	39	78	158
6	吉沢友七	東京よみうり	40	39	79	41	38	79	158
8	浜野 賢	レインボー	43	39	82	37	41	78	160
8	水巻外吉	筑波	41	40	81	38	41	79	160
10	中山 泉	戸塚	43	40	83	38	40	78	161
10	中村正信	我孫子	41	41	82	37	42	79	161
10	成宮秋良	横浜	39	43	82	40	39	79	161
10	櫛引大吉	狭山	42	38	80	42	39	81	161
14	芝入俊雄	姉ヶ崎	41	42	83	41	38	79	162
14	長谷川浩一	桐生	39	44	83	41	38	79	162
14	井上 朗	姉ヶ崎	40	42	82	40	40	80	162
14	杉坂智男	桜ヶ丘	40	41	81	44	37	81	162
14	大河内文男	日高	40	41	81	41	40	81	162
14	小宮山光正	龍ヶ崎	40	41	81	40	41	81	162
14	根本致知	水戸	38	42	80	38	44	82	162
21	荻津 邦	水戸	43	42	85	37	41	78	163
21	林 善兵衛	飯能	40	42	82	43	38	81	163
21	横山 寛	鎌ヶ谷	42	40	82	38	43	81	163
21	山田真早志	鷹之台	41	41	82	42	39	81	163
21	佐藤 博	龍ヶ崎	42	45	87	38	38	76	163
21	井上裕久	川崎国際	43	38	81	39	43	82	163
21	大竹栄一	武蔵	42	39	81	40	42	82	163
28	杉山沖四郎	武蔵	44	39	83	43	38	81	164
28	宮本忠志	武蔵	41	41	82	45	37	82	164
28	佐藤一雄	武蔵	42	45	87	39	38	77	164
28	芽野実平	諏訪湖	42	40	82	40	42	82	164
28	朝井和也	狭山	42	38	80	40	44	84	164
33	清水武男	水戸	43	41	84	40	41	81	165
33	石橋義夫	東京	42	41	83	40	42	82	165
33	菅沼重男	本厚木	42	41	83	41	41	82	165
33	新井康之	立川国際	43	40	83	39	43	82	165
33	小泉保男	大洗	43	40	83	41	41	82	165
33	菊地丈夫	塩原	41	41	82	42	41	83	165
33	古川正男	栃木	40	42	82	41	42	83	165
33	新保衛助	藤ヶ谷	40	41	81	41	43	84	165
41	増岡重昂	霞ヶ関	43	41	84	37	45	82	166
41	秀口 正	横浜	41	44	85	38	43	81	166
41	岸 一	千葉	41	40	81	38	47	85	166
41	佐野親夫	武蔵	41	40	81	43	42	85	166
45	細井慎一	日光	41	44	85	42	40	82	167
45	林 茂樹	新千葉	45	40	85	40	42	82	167
45	中村 敬	南箱根	43	42	85	42	40	82	167
45	野原敏男	青梅	41	42	83	41	43	84	167
45	村井田敏夫	小田原湯本	43	40	83	45	39	84	167
45	四脇喜太郎	袖ヶ浦	42	43	85	42	40	82	167
45	小原正也	土浦	44	42	86	40	41	81	167
45	三木俊治	黒磯	38	42	80	40	47	87	167
53	平本正美	長竹	41	43	84	43	41	84	168
53	萩野信男	日光	39	45	84	43	41	84	168
53	加藤知忠	相模原	43	40	83	41	44	85	168
53	国本保雄	相模原	42	44	86	45	37	82	168
53	森田光一郎	皆川城	40	42	82	42	44	86	168
53	曽根順之助	東名厚木	41	42	83	42	43	85	168
53	小宮五郎	嵐山	40	42	82	45	41	86	168
60	児玉正夫	富士御殿場	44	40	84	42	43	85	169
60	中村 実	大相模	43	41	84	41	44	85	169
60	塩原茂生	霞ヶ関	42	42	84	43	42	85	169
60	長島 衛	紫	44	41	85	42	42	84	169
60	鴨下光治	高根	42	42	84	44	41	85	169
60	飯島一雄	あさひヶ丘	41	42	83	44	42	86	169
60	鳥山善三	ダイヤグリーン	41	42	83	44	42	86	169
60	鈴木年宏	取手	40	43	83	45	41	86	169
60	遠藤慶蔵	大洗	41	41	82	44	43	87	169
60	武石小二郎	船橋	42	40	82	46	41	87	169
60	林 輝信	白鳳	47	40	87	41	41	82	169
60	馬場正信	東松山	39	42	81	44	44	88	169
72	岩下広信	横浜	44	40	84	40	46	86	170
72	大塚成吉	中山	43	42	85	42	43	85	170
72	北田 潤	取手	43	40	83	45	42	87	170
72	小谷泰造	我孫子	44	42	86	41	43	84	170
72	加藤 勝	柏	45	42	87	41	42	83	170
72	新井邦史	熊谷	42	46	88	44	38	82	170
72	島田三郎	高麗川	45	46	91	40	39	79	170
79	正木正志	立川国際	43	41	84	43	44	87	171
79	石田忠男	富士御殿場	44	42	86	44	41	85	171
79	鈴木勲三	青梅	44	38	82	43	46	89	171
79	佐山梅義	新千葉	47	41	88	39	44	83	171
83	奥迫利明	江戸崎	43	43	86	43	43	86	172
83	林 春善	戸塚	44	43	87	41	44	85	172
83	宗光 厚	水戸	45	45	90	42	40	82	172
86	大崎 党	鶴舞	39	45	84	44	45	89	173
86	渡辺長四郎	飯能	42	42	84	44	45	89	173
86	中山 誠	大利根	42	43	85	46	42	88	173
86	都築吉久	武蔵	44	41	85	46	42	88	173
86	佐野幸男	塩原	45	41	86	43	44	87	173
86	矢沢昭美	千葉スプリングス	42	45	87	44	42	86	173
86	前田礼一郎	我孫子	43	45	88	40	45	85	173
86	田中廉蔵	霞ヶ関	44	44	88	42	43	85	173
86	大懸健造	武蔵	46	43	89	43	41	84	173
86	平田松三郎	狭山	45	44	89	40	44	84	173
96	白倉 久	甲府国際	41	44	85	45	44	89	174
96	宮沢邦重	赤城国際	42	44	86	44	44	88	174
96	桂川鉄男	東京国際	47	40	87	41	46	87	174
96	鈴木政伊	川崎国際	42	40	82	47	45	92	174
96	松野京三	我孫子	45	42	87	44	43	87	174
96	初見敬一郎	大利根	45	43	88	41	45	86	174
96	佐藤 進	中山	47	43	90	41	43	84	174
103	坂本平一郎	武蔵	43	40	83	45	47	92	175
104	出島正男	総武	43	43	86	45	45	90	176
104	柳川資郎	銚子	44	42	86	45	45	90	176
104	笹田隼男	南富士	44	44	88	43	45	88	176
104	岩崎 学	鶴舞	43	47	90	44	42	86	176
104	葛西 明	嵐山	46	45	91	43	42	85	176
109	古川友司	本厚木	45	46	91	44	42	86	177
110	池田 広	御殿場	44	43	87	47	44	91	178
110	鈴木忠夫	紫	47	41	88	47	43	90	178
110	青木宏尤	佐倉	42	46	88	47	43	90	178
110	鶴岡正男	鶴舞	40	48	88	45	45	90	178
114	大城敬三	袖ヶ浦	45	41	86	47	46	93	179
114	毛利 好	岡部チサン	46	43	89	44	46	90	179
114	脇 革命	成田ハイツリー	41	48	89	44	46	90	179
114	毛谷村一六	N.アンドリュース	44	45	89	46	44	90	179
114	加地武生	熊谷	48	42	90	46	43	89	179
114	酒井文人	小金井	45	45	90	44	45	89	179
114	小林寿明	赤城国際	42	49	91	43	45	88	179
121	山田 隆	富士小山	47	43	90	50	41	91	181
122	武田富雄	船橋	43	44	87	47	49	96	183
123	小坂季一	富士平原	47	45	92	46	46	92	184
123	吉田 肇	朝霧ジャンボリー	46	48	94	47	43	90	184
125	植野正清	霞ヶ関	46	45	91	49	45	94	185
	牛久忠彦	狭山	（欠場）			（欠場）			
	脇 俊丸	本千葉	（欠場）			（欠場）			
	目崎隆司	我孫子	（欠場）			（欠場）			
	岩井一雄	東名	（欠場）			（欠場）			

昭和62年度 関東グランド・シニア ゴルフ選手権競技

●開催期日　昭和62年10月19日(月)　18ホール・ストローク・プレー

●開催コース　相模カンツリー倶楽部　(6,132ヤード　パー72)

●参加人数　131名

観戦記・写真／KGA広報委員　片山晴美

宮田貞之選手(船橋)雪辱なる

62年度関東グランド・シニア選手権競技は神奈川県相模カンツリー倶楽部で開催された。

相模といえば昭和6年にオープンした歴史ある名門コース。その歴史にみがきぬかれた風格が隋所に見られる。参加したプレイヤーもまた〝人の歴史〟を感じさる大人たち、この二つが相まって、素晴しい大会となった。

今年は倉重(霞ケ関)を最年長(明治33年生まれ86歳)に、明治生まれの選手が21人エントリー(3人欠場)し、オールドパワー爆発かと期待されたが………。

競技は朝から〝天気晴朗なれど風強し〟、気温も11時を過ぎる頃から25度を越え、9月中旬の気候となった。半袖姿でプレーをする選手も見られた。しかしこの強風には各プレーヤーは大いに悩まされたようだ。

インコースからスタートした選手には、10番ショートホール(167ヤード)は池越え、グリーンは砲台、左右にアリソンバンカー、風は左から右へと吹き荒れ、まことに難しいスターティングホールとなった。

ワンオンした選手は10人といなかった。ちなみに、平均スコアーは、4.4という結果であった。

こんな天候の中でのプレーは運、不運がスコアを大きく左右する。風と友達となったプレーヤー、喧嘩したプレーヤー、悲喜交々であった。

そんな中で見事優勝したのは宮田貞之(船橋)であった。

宮田は昨年、最終ホールで1mのパットをはずし、3人のプレーオフに持ち込まれて、仲間の武石(船橋)に敗れた。「口には出さなかったが自分自身が情けなかったし、また、あんな悔しかった事はなかった。」とスコアボードを見ながらそっと語ってくれたものだ。

今年は武石の三連覇成るかと大いに注目された大会だったが、どうも風と友達に成り損こなった様子、アウトとインのショートホールで、トリプルを1回ずつたたき85で終了した。

▲優勝した宮田貞之選手　右は昨年の覇者、武石選手

▲「今日は、風が吹き荒れて……」と倉重選手

▶「オットト……」若いですね。明治生まれの永山選手

▲温い日差しをあびて、いろいろ今日の調子を語り合う1コマ

優勝したら盛大にパーティーをやりますから出席して下さいと、筆者にも声を掛けてくれていただけに残念ではあるが、仲間の宮田が優勝なら諦めもつくだろう。来年またがんばって欲しいものである。

霞ヶ関で会いましょう

宮田は、アウトコース2番目のスタートのため、結果が判る迄、長時間待たされ、お風呂に入ってゆっくりしたいところだったが、昨年の事(プレーオフ)もあるので、スコアボードの前で待機、しかし太陽が西に傾く頃、初優勝が決った。スコアボード前で喜びのインタビュー。

生まれは？「大正5年9月24日71歳、船橋所属、現在森永乳業顧問」今日のゴルフは？「風が強いのでクラブの選択に気をつけた。それと一打一打を丁寧にと心掛けた。」日頃の練習は？「コースに出るのは週一回、ただ自宅から船橋まで車で30分ぐらいなので、コースの練習場には時間さえあれば行きます。近所の練習場より安くすみますから。練習がおもしろいと思うようになってから上手になったような気がします。」健康維持は？「別にこれといった事はしていません、ただ仕事の関係上食事だけはいろいろと注意しています。牛乳はたくさん飲みます。」とニヤッと笑う。

「体は傷だらけだけど(手術を3回ばかりしている)足腰は学生の頃、野球と陸上をやってましたから、強いですね。」ゴルフに対する信条は？「ゴルフは始める時のプランニングが大切、私は5番アイアン1本、1年間練習しました。練習場で打ち込むのを他人が見てくれる様になって初めてコースへ出ました。」

宮田さんのゴルフの歴史は？「45歳から始め、5年でシングルになりました。現在船橋のオフシャル〝5〟です。」

明るい西日を顔に受け、カップを持った姿は本当にお若い宮田だった。

2位には山口栄寿(唐沢)、3位は初出場ながら「こんなのは風のうちに入りませんよ」と云う福田国三(浜松シーサイド)が入った。

表彰式の後は恒例のパーティー、優勝者あいさつで宮田は、「ゴルファーとして、また、男としてこの段上であいさつ出来るのがうれしい」と喜びを表現した。

最後に明治生まれの大将格、倉重さんの一言「今日はこんな風が吹き荒れ、何んにも云うことありません。」この言葉が参加選手の大半の気持を物語っていたようだ。

さすがに、グランド・シニアの紳士たちである。パーティー欠席者はほとんどいなかった。開催倶楽部の心づくしの料理を味わいながら、歓談はつきない。

とはいえ、秋の日の暮れかたは早い。〝来年霞ヶ関で元気に会おうや〟と、交々約束しながら三三五五帰路についた。

昭和62年度　関東グランド・シニア ゴルフ選手権競技成績表

参加者　131名　10月19日(月)　於：相模カンツリー倶楽部

順位	氏名	所属	合計	アウト	イン
優勝	宮田 貞之	船橋	78	38	40
2	山口 栄寿	唐沢	79	40	39
3	福田 国三	浜松シーサイド	80	37	43
4	吉島 清	土浦	82	42	40
5	田口 和男	旧軽井沢	83	40	43
6	松野 京三	我孫子	84	40	44
6	河口 恒治	武蔵	84	39	45
8	武石 小二郎	船橋	85	44	41
8	寺本 正敏	飯能	85	43	42
8	山中 [illegible]市	相模	85	42	43
8	伊藤 大造	甘楽	85	42	43
8	田口 正男	霞ケ関	85	42	43
13	大野 都蔵	唐沢	86	45	41
13	上津原 時雄	GMG八王子	86	45	41
13	櫛引 大吉	狭山	86	45	41
13	宮尾 和夫	津久井湖	86	44	42
13	十代田 武平	大浅間	86	43	43
13	岡安 功	鷹之台	86	46	40
19	寺田 正二	霞ケ関	87	45	42
19	太田 勝郎	横浜	87	45	42
19	増田 三郎	津久井湖	87	43	44
22	鈴木 義平	船橋	88	44	44
22	影山 圭三	霞ケ関	88	45	43
22	岡藤 武夫	武蔵	88	43	45
22	南郷 茂宏	相模	88	43	45
22	原 康夫	長野	88	44	44
22	綾井 芳一	小田原湯本	88	43	45
22	安田 俊浩	取手	88	44	44
22	黒石 義忠	我孫子	88	44	44
30	坂本 平一郎	武蔵	89	40	49
30	矢野 正親	鳥山城	89	43	46
30	谷原 長生	狭山	89	44	45
30	雨宮 範昌	本厚木	89	42	47
30	大内田 栄熊	日本	89	43	46
30	徳田 博士	愛鷹	89	44	45
36	清水 武男	水戸	90	46	44
36	神林 鎌	我孫子	90	45	45
36	荒井 春長	鷹之台	90	47	43
36	黒川 乃武夫	相模	90	43	47
36	中島 十郎	浜松シーサイド	90	46	44
36	矢部 留太	黒羽チサン	90	47	43
36	内山 正寄	桜ケ丘	90	45	45
36	須賀 長市	霞ケ関	90	44	46
44	小林 行治	相模	91	44	47
44	久芳 四郎	南箱根	91	46	45
44	瀬戸 庸二	相模	91	48	43
44	上野 政次	鶴舞	91	46	45
44	宮崎 三郎	東京	91	44	47
44	大澤 武次	越生	91	44	47
44	西原 昇	武蔵野	91	44	47
44	会田 勇	ニューセントアンドリュース	91	47	44
44	鳥居 正治	相模	91	48	43
44	根岸 秋治	桜ケ丘	91	44	47
44	永山 公平	サンライズ	91	45	46
55	小林 健祐	柏	92	46	46
55	菊池 武俊	大相模	92	46	46
55	佐々木 恒利	相模	92	44	48
55	中江 昭男	相模	92	44	48
55	森川 一男	小川	92	44	48
55	河内 石太郎	武蔵	92	45	47
55	小川 保人	相模原	92	49	43
55	粟原 栄二	柏	92	46	46
55	松岡 晴人	嵐山	92	45	47
55	増田 徳三	嵐山	92	46	46
55	鈴木 和男	武蔵	92	43	49
55	古泉 三男	ニューセントアンドリュース	92	46	46
55	鯨井 敏雄	湯河原	92	45	47
68	渡辺 亨	武蔵	93	47	46
68	丸山 弥兵衛	穂高	93	46	47
68	三島 義温	東京	93	44	49
68	有光 九州男	津久井湖	93	45	48
68	山角 敬一	千葉	93	44	49
73	重富 清一	袖ケ浦	94	47	47
73	大槻 博	江戸崎	94	47	47
73	栄 正雄	ダイヤグリーン	94	45	49
73	吉田 綱夫	富士	94	45	49
73	原田 敏一	高根	94	46	48
73	宮富 保	鷹之台	94	48	46
73	奥野 邦比古	相模	94	45	49
73	龍村 晋	東京	94	49	45
81	冨田 三郎	相模原	95	45	50
81	高波瀬 乙松	多摩	95	46	49
81	青木 正策	藤ケ谷	95	47	48
81	片桐 光由	日高	95	47	48
81	斉藤 弘植	霞ケ関	95	47	48
81	柴田 建一	狭山	95	47	48
81	内田 甲子雄	日高	95	48	47
81	柴田 勝日出	東京国際	95	45	50
81	安川 泰	東京	95	50	45
81	山口 澄	ニューセントアンドリュース	95	48	47
91	坂井 敏男	一の宮	96	46	50
91	日塔 慎一	相模原	96	51	45
91	笠原 慶太郎	嵐山	96	49	47
91	菊池 一朗	湯河原	96	48	48
91	倉重 清久	霞ケ関	96	46	50
96	鈴木 太郎	相模	97	46	51
96	牧山 恭輔	袖ケ浦	97	47	50
98	新井 吾三郎	我孫子	98	50	48
98	石田 喜一	一の宮	98	48	50
98	鶴野 幸雄	狭山	98	47	51
98	島田 喜久治	柏	98	48	50
98	柳ケ瀬 洋三郎	富士	98	49	49
98	坂川 好太郎	富士	98	48	50
98	中本 義茂	富士	98	47	51
98	多田 清	岡部チサン	98	49	49
106	石川 誠一郎	武蔵	99	48	51
106	小島 武忠	横浜	99	50	49
106	駒場 雅	日光	99	49	50
106	小田 正俊	相模	99	47	52
106	増田 栄一	日光	99	49	50
106	頼富 龍太郎	我孫子	99	47	52
112	村木 博司	東名	100	51	49
112	塩澤 龍彦	鷹之台	100	48	52
114	金森 英雄	大厚木	101	48	53
114	飯田 尚文	桜ケ丘	101	50	51
114	鈴木 省吾	武蔵	101	53	48
117	池尾 勝巳	相模	102	51	51
117	舟山 秀治	多摩	102	52	50
117	長谷川 順治	湯河原	102	52	50
120	鈴木 吉次郎	横浜	103	51	52
121	河村 秀二	八王子	104	51	53
121	福田 富市	浜松シーサイド	104	50	54
121	小林 久次郎	長野	104	53	51
121	倉石 数知	ニューセントアンドリュース	104	56	48
125	西沢 篤志	湯河原	105	54	51
125	小川 吉衛	小金井	105	52	53
125	高城 誠	霞ケ関	105	53	52
128	蝦原 操	船橋	112	55	57
129	上杉 達雄	狭山	113	59	54

失格　2名

委員長インタビュー　第4回

グリーン委員長　古賀　始

聞き手・KGA広報委員　宮元　昭雄

ゴルファーの感性が100%滲み出るものがあるとすれば、それはパットであろう。それだけにパッティング・クォリティーを如何に最高の状態に仕上げていくか、関係者たちはそれなりに日夜研究を怠っていない。

昭和54年、KGAの組織の中にグリーン委員会が設立された。以来各加盟倶楽部との相互研究はもとより、各種の情報交換などによってその果たすべき役割は地味ながら極めて大きいものがあると言えよう。

競技団体という枠組みの中で、委員会が推進せねばならない問題は山積みしているが、その運営を一身に託されて活躍する古賀委員長に、委員会の指導性などについて話しをうかがってみた。

——グリーン委員会の生い立ちからうかがいましょうか。

かれこれ20年も昔の事になりますが、当たり前のことながらゴルフにとってグリーンの重要性が論議され、連盟の中でいろいろ検討されるようになりました。結果的に昭和54年KGAの中にグリーンと税対（税対策委員会）が設立され、その初代委員長に安達貞市氏（故人）が就任しました。もともとグリーン研究所の設立の必要性を主張してきた人だったので、自らのゴルフ場を一種のモルモット的立場において、グリーンの質の向上に積極的な研究を続けていたわけです。

本来KGAは競技団体であり、〝グリーン〟はどっちかといえば、ゴルフ場経営に関する分野の問題であり、見方によってはいろいろと論議がないわけではなかったが、競技とグリーンという関連からみて、その指導の必要性を感じて委員会が生まれたという事です。

——現在、委員会の活動情況は。

年4回、委員会の開催を行い、各ゴルフ場からの情報収集によって出来たデーターに基づいて指導内容を検討したり、海外情報を分析して、これを必要とあらば各倶楽部の関係者に参考的資料として提供し、また年2回の研究会や講習会を開催し、学者や専門家による講演や研究会などを実施しています。

——講習会の実績はかなり積み重ねられているようで、大変好評ですね。

すでに16回の講習会を開いたのですが、当初は40名前後の出席者でしたのが、今では200名近くの人が熱心に学んでいます。グリーンキーパーはもちろん、倶楽部の支配人、そして、理事、役員の方々などとても熱心ですね。

——それだけグリーンに対して関心が強まってきたという証拠でしょう。しかし〝グリーン〟に関する限り専門的知識が必要となるわけですが、現在の委員会構成で問題はないのでしょうか。

確かにグリーン自体を科学的に研究指導するという点から考えますと、専門的知識が必要でしょう。だから特別顧問を委員会に置いているのもグリーン委員会だけです。私の個人的考えとしては将来は別の枠組みの中でグリーンに関する研究や、実務指導が出来るような組織が必要ではないかと思っています。

——関西には昔からグリーン研究の組織体がありますが、古賀さんが考えておられるその形というものは具体的にはどんなものですか。

あくまで私の夢として聞いて貰いたいが、現実的には関東にひとつの組織を作り上げ、単なる学術的団体としての指導ではなく実践面での研究指導が出来る組織があれば……、と思っています。

——いわばグリーン119番というようなものですね。

KGAはルールの問い合わせには、ルール委員会で即答は出来るが、グリーンに関する問い合わせとなるとストレートにはいかない。だからこれはKGAとは別のものですが、ゴルフ場芝生の基礎や、応用栽培など現在の諸問題解決の為に組織的な団体でも作り、将来KGAの諮問機関となりうるよう、その具体的な実践面と学術面を網羅した組織体が必要だと考えています。

——関係者の啓蒙によってゴルファーの質も年々向上しています。特に昨今はゴルフの楽しみ方の中にそのコースのレイアウトや、グリーンの良し悪しまで含めるようになりました。ゴルファーはそれほど、これらのことに敏感になったようですね。ですから、グリーンがゴルフ場にとって生命でもあるという考え方からすれば、広い意味で委員会としての活動の範囲も時流に応じて広げていかねばならないことになりますね。

ところで話は変わりますが、昨今は猫も杓子もベントグリーン一色のようですが、高麗の復権はないのでしょうか。

私の考え方は高麗の良さも認めるべきだと思っています。確かにベントは美しく滑らかで、メンテナンスの点でも非常に有利であることはハッキリしていますね。

ベントと高麗といえば絹と木綿の違いのようなものです。コースの美観、パッティング・クォリティーの維持などから見れば、ベントの人気が高いのは当然かも知れませんね。

これまでベントに対しては認識も不足してました。だから改造したくても怖くて手が出せなかった。ところがペンクロスになり芝そのものも丈夫になり、またグリーンの構造も変わってきて、原理は変わらないが、サンドが中心のグリーンとなると、だんだんと自信が付いてきて、これならやれる、という考えと同時にゴルファーがベントを好むようになって来た。つまり憧れがあったから、一挙にベントブームに移って行ったという事でしょう。

しかし私はベントも良いが、高麗の良さもあるというのが持論です。

育て易い、管理し易い、日本の気候風土に合わせ易いなど、寒地は当然ベントだろうけど……。

——古賀さんの会社では、愛知の額田コースを高麗グリーンにはり替えたという事ですが。

グリーンは本来、ワングリーンが自然でしょうね。ただ日本の場合、来場者が多いとかいろんな事情があってツーグリーンにしている。額田は36ホールあるのでどちらか18ホールをワングリーンにしたかった。しかしベントのワングリーンでは当時、技術的に自信がなかったので、高麗のワングリーンにしたのです。ツーグリーンの場合は、ベントをメインにサブを高麗にしてベントの良さをきわだたせたいと考えたのです。

——アメリカの中南部辺りのゴルフ場は、ベントから逆に高麗に移っているという事のようですね。〝ソイシア・グラス〟と言って、つまり高麗芝ですが、マイアーZ52と言う品種だそうです。そのプレイアビリティーが非常に高いので将来は支配的な芝草になるだろうと聞いていますが、米国も試行錯誤を続けているようですね。

日本は寒地型と暖地型の、両極端の育生を根底に考えて芝草の育生をしなくてはならないし、また学説的にはベントでも充分暑さに耐えられるという事で、このところベントグリーンに改造する所が非常に目立ってきています。グリーンの研究は一朝一夕には行きませんよ。しかし、KGA加盟コースの殆どがベントグリーンを本グリーンに改造していく傾向は強まっていますから、ここ2～3年の内には、改造が急ピッチで進むかも知れませんね。

——ベントのワングリーンの基礎はサンドでしょうが、例えばUSGA方式、パーウィック、それにカリフォルニア方式など各ゴルフ場が思い思いの造り方をやっていますが、古賀さんはどう考えられますか。

グリーンはワングリーンが本来の姿で、ツーグリーンは日本的センスのものでしょう。ただワングリーンにするとどうしても面積を広く造らねばならないし、メンテナンスの点から考えれば、広すぎるグリーンはいろいろ問題もある。サッチングやエアレーションなど、更新作業をやるにしても、営業上のローテーションとの兼ね合いが大変難しくなる事もあるでしょう。どの方式が良いかと言われても、原理はひとつ、要は水抜きが良くて、よく酸素を与えてやる事、適度の保水と保肥能力を持たせるサンドグリーン、つまり砂ですね。だけど日本は雨も降る国だし、アメリカから取り入れた方式がすべて最高だという考えにはなりません。日本の気候、風土などを基礎にして考えたグリーン造りをすることが、より大切ではないでしょうか。

——つまり結論的には、じっくり時間をかけて良く研究をすることが大切だ、ということですね。実際問題として仮にテストグリーンを造った場合どの程度時間をかけて見る必要がありますか。

グリーン造りにはいろいろと問題点があるけど、要は時間をかけてパッティングの練習グリーンをまず先に造り上げ、ここで1年以上様子を見ることが肝要ですね。3年以上かけないと本当のベントの良さを知る事は出来ないと思いますよ。根詰りや芝の衰え具合など、時間をかけてよく研究してからでも

遅くはないと思いますね。

だから、USGAや、パーウィックなどの方式でどれが良いか、という事になれば、そのコースの立地条件や特質を考えてやればよい事で、要は水、空気、砂のバランスが保てて、管理上の手違いさえなければ、クォリティーの高いベントグリーンは出来ると思います。

——グリーンキーパーと、理事者が一体になって、グリーンに愛情を持って対処することですね。

その通りです。キーパーには、気持ちがあっても冒険が許されない。しかし理事者が理解し積極的に研究、改善していく心構えがあれば、グリーンは立派に育成する筈です。

——例えば関東オープンや、日本オープンなど、特別のトーナメントとなると、コースセッティングのマニアルによって、コース整備をするわけですが、グリーン委員会が分担する責任の範囲はないのですか？

現況はその開催コースのグリーンキーパーが、如何に苦労しているか、という事ですね。つまり、グリーン面、ラフの深さ、バンカーのふち切りなど、隅から隅まで現状に目を配り、手を加えていく苦労がある。私はこれなどは連盟のグリーン委員会が、そのコースを直接指導して完全にセット・アップし、あとは競技委員会に引き渡せばよいのではないかと思っています。

専門の範疇で、各委員会が担当してやっていくことが、望ましい方法だと常々考えてます。

——大きなトーナメントをやることになれば、コースの条件、整備が厳しくなり、メンバーなどの苦情もあって大変だと聞きますが。

確かにそうかも知れません。しかしそれは考えようですね。私の持論は、一時的に不満があっても開催することによって、コースは一段と整備され、結果的にはそこのメンバーにとってより良いコースに変貌することになると思いますね。

——グリーン委員会としての活躍は、その重要性がより明確になるわけですね。組織の活用は合理的に生かされてこそ、その妙を発揮するものでしょうから、今後はそれらの点を含めて前向きに研究を深めていただき、グリーン委員会の本来の目的というか、その役割を果たしていただきたいと希望してます。

ゴルフQ&A

回答者：JGAルール委員　河西　幹一

Q−1 ドロップした球がホールの方に転がる

ストローク・プレーで、ラテラル・ウォーター・ハザードに球を入れたので、競技者がR26—1—c—イの救済を受け、球をドロップしたところ、球はホールの方に転がっていった。しかし、球はドロップの際最初に地面に落ちた地点より2クラブ・レングス以内で、しかもラテラル・ウォーター・ハザードに入った球がその区域の限界を最後に横切った地点よりもホールに近づかないところに止まった。競技者はR20—2—cが適用になると勘違いして、球を拾い上げて再ドロップしたところ前と同じように球がホールの方向に転がっていったので、再び球を拾い上げて、再ドロップした球が最初に地面に落ちた地点にその球をプレースし、次のストロークを行った。この場合、競技者は2打の罰を課せられるのか、それとも4打の罰となるのでしょうか。

A−1

2打の罰である。最初のドロップで球はイン・プレーとなっており、その球を拾い上げた時点で、競技者はR18—2—aに違反したことになる。しかも、球が最初のドロップの際に止まった地点にその球をリプレースしなかったので、競技者は合計2打の罰が課せられる。

Q−2 ドロップの代わりにはじめからプレース

球をドロップしなければならない場合で、球をドロップすれば球が転がってハザード内に入ったり、あるいは2クラブ・レングス以上あきらかに転がって離れると予想される場合、プレーヤーに初めからその球をプレースさせることは認められないのでしょうか。

A−2

認められない。球をドロップしたあと再ドロップする手続きは、ドロップした球が本当にハザードへ転がり込むかどうかなどについての疑問を残さないためにも、更にはまた、後でプレースを必要とすることになった場合にプレースすべき地点を決めるためにも必要なことなのです。

Q−3 ラフの球をフェアーウェーにドロップする

フェアーウェーに接するラフの中に球があって、動かせない障害物からの救済を受けることが出来る場合、プレーヤーは、R24—2—b—イに基づいて救済を受けるとき、その球をフェアーウェーにドロップすることが出来るか。

A−3

出来る。ゴルフ規則では、フェアーウェーとラフの区別はなく、両方を含めて「スルー・ザ・グリーン」という言葉が用いられています。

Q−4 救済を受けて拾い上げた球を元の位置にリプレース

競技者の打ったボールがアウトバウンズの境界線に沿ってある、カート道路（幅2m）との間にあった。スタンスが道路にかかるので救済を受けようと球を拾い上げたが規則に基づいてドロップ出来る場所が近くにないことに気付いて、プレーヤーは球を元の位置にリプレースした。この場合、どのように裁定すべきでしょうか。

A−4

R24に基づいて救済を受けるために、プレーヤーは球を拾い上げることができる。しかしながら、救済を受けないことに後で心変わりしたことによって球を拾い上げることができるというプレーヤーの権利は否認され、プレーヤーは、イン・プレーの球を拾いあげたことに対して、R18—2—aにより1打の罰が課せられる。

Q−5 空振り後にアンプレヤブルの宣言

プレーヤーのティ・ショットは、木の根元に止まっていた。プレーヤーは打ちづらかったが、ストロークした。しかし球は動かず空振りしてしまった。結局その球をアンプレヤブルと宣言した。この場合、プレーヤーは、R28—aに基づいて、ティ・グラウンドに戻り、プレーイング4で進むことができるでしょうか。

A−5

できない。R28は、プレーヤーが「その球を最後にプレーした（または動かした）箇所に出来るだけ近い所から、次のストロークを行う」ことを認めています。この質問のケースでは、初めからの球を最後にプレーしたのは、木の根元からになります。

Q−6 アンプレヤブルの宣言

ティ・ショットを深い谷に落としたので、プレーヤーはすぐにその球をアンプレヤブルと宣言し、R28に基づいてストロークと距離の処置をとることにして、別の球をティ・グラウンドからプレーした。プレーヤーは捜してもいない球をアンプレヤブルと宣言できるのでしょうか。

A−6

出来る。プレーヤーは、自分の球を見つけなくても、ストロークと距離の処置をとることが出来る。（R28—a）。しかしながら、R28—bおよびcの処置をとる場合は、その球が止まっている箇所を基点とする必要があるので、プレーヤーは、同条(b)および(c)に基づいて処置するためには自分の球を見つけて確認しなければならない。

Q−7 球の止まった箇所に最も近い地点は

グリーン方向右側に、ホールに平行して設置してある、幅30cmのU字溝の蓋（網目状）の上に止まった球の救済処置について質問いたします。

溝の中心より、グリーン方向右側の蓋の上に止まっている球は右側、中心より左側に止まっている場合は左側が、規則にある「球の止まっている箇所に最も近い地点」と判断し、各々、規則（R24—b）に従ってドロップしてよろしいのでしょうか。

またその際、球とスタンスの間に溝をはさむような姿勢で、ストロークしてもよろしいでしょうか。

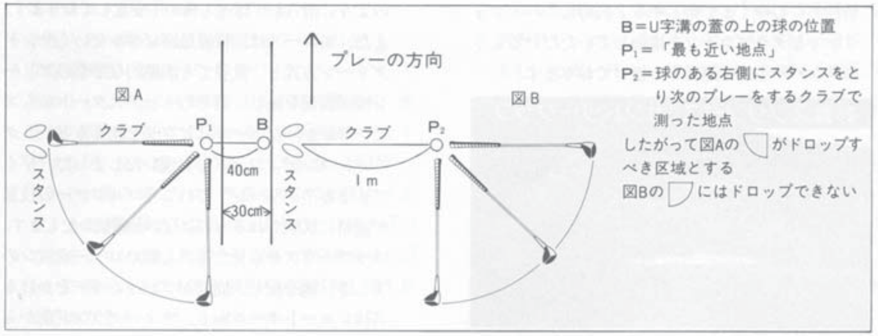
A−7

動かせない障害物からの救済は、ホールに近づかず、その障害を避けうる、「球の止まっている箇所に最も近い地点」をコース上に決めることが大切です。問題は球の止まっている箇所に最も近い地点はどこかということで、図に書いてみました。

下記の図は幅30cmのU字溝の蓋（網目状）の上に止まった球を右利きプレーヤーが救済を受ける場合の止まっている箇所に最も近い地点を表した図でP_1の位置が正しく、U字溝の右側に球があっても左側にドロップすべきです。左利きのプレーヤーはU字溝の右側にドロップしなければなりません。

更におたずねのU字溝の右側の溝に極く近い所にドロップして、スタンスを溝の左側にとり、溝をスタンスと球の間に介在する様にしてストロークすることは規則上許されません。

障害物からの救済を受けてドロップする場合、R24—b—イので、その障害物の障害を避けてドロップしなければならないと定められている。U字溝を挟んでドロップすることは救済を受けながら、球の止まり所によっては、更に救済につながる行為となるのでしてはならない。



湯沢パークゴルフ倶楽部

1.倶楽部名　湯沢パークゴルフ倶楽部
　住所　新潟県南魚沼郡湯沢町大字土樽1613
　電話　0257-87-4111㈹
2.開場年月日　昭和57年8月25日
3.理事長名　清水八十治　大正4年6月4日生
　倶楽部代表者　空席
4.倶楽部分科委員長名
　競技委員長　　　　　森山八郎
　ハンディキャップ委員長　茂野三郎
　フェローシップ委員長　山田貴一
5.支配人　鈴木一夫　昭和13年8月26日生
6.倶楽部概要

新潟県の南部、川端康成の「雪国」で全国的に知れ渡った湯沢温泉より5km程の東部に位置し、上越新幹線及び関越自動車道の開通に伴い、開場いたしました。

自然、自生の杉林で各ホールセパレートされ、OUTは丘陵、INは林間コースとそれぞれ趣が異なり、穏やかなアップダウンも巧みに生かし、豪快且つ正確なコントロール・ショットを要する2グリーンとも、みどり鮮やかなベントグリーンの18ホールです。

皆様方に心ゆくまで楽しめると同時に、ハイクォリティなクラブライフを堪能していただけるようにメンバー主体の運営を心掛けております。

妙義スプリングス®カントリークラブ

1.倶楽部名　妙義スプリングス®カントリー倶楽部
　住所　群馬県甘楽郡妙義町菅原2678
　電話　0274-73-3801㈹
2.開場年月日　昭和61年8月31日
3.理事長名　山本　剛　昭和5年9月1日生
　倶楽部代表者　山本　剛　助川広道
4.倶楽部分科委員長名
　競技委員長　　　　　赤沢達之
　ハンディキャップ委員長　岡田正男
　エチケット委員長　　　吉野重彦
　キャディ委員長　　　　矢野昭吉
　広報委員長　　　　　　増野武夫
　ヘルス委員長　　　　　大崎林三
　食堂委員長　　　　　　大河原清一
　企画実行委員長　　　　内田俊二
5.支配人　山崎啓之　昭和16年3月4日生
6.倶楽部概要

上州名物カラッ風を、屏風のような妙義山がシャットアウトする比較的フラットな113万平方メートルの丘陵地に、戦略性と芸術性豊かなレイアウトを施した本格的チャンピオンコースとして昭和61年8月31日にオープンいたしました。営業中姉妹9コース並びに造成中2コースと同様、芝としては、国内初の農林水産省品種登録を受けた、スプリングス®ベントグラスを採用、ワングリーンシステムにより年間を通してベストコンディションでプレーをお楽しみ頂けます。特にスプリングス®ベントグラスは、夏の高温多湿に強く、繁殖力が旺盛であるという特質があり、日本の過酷な気候条件に強い上、3.0㎜迄カット出来る為表面は鏡のように滑らかで球速も極めて安定しております。また、当コースは、世界最高レベルをいくサンドグリーン方式と、世界でも画期的な冬季のグリーン暖房設備を施し、真冬のトップスタートからスピンのかかったボールはピタリと止まるというグリーンコンディションを実現いたしました。〝早くて止まる？グリーン〟これこそゴルファーの技量が適格に反映されるものはないと確信いたします。クラブハウスから見た筆舌し難いロケーションの美しさ、池を配し人面岩がプレッシャーをかける名物ショートホールNo.6、ティーグランド前から延々グリーン回り迄続くバンカーを配したロングホールNo.12、決して妥協を許さない微妙なアンジュレーションをもつフェアウェー及びグリーン、そして美も備える法面のバンカー等々、攻める楽しさだけでなく、美しさを味わう楽しさも兼備えたコースが当妙義スプリングスカントリー倶楽部であります。

交通は、JR東日本、信越線松井田又は磯部駅から倶楽部送迎バスで約10分、自動車使用の場合は、関越道藤岡ICから約50分、昭和67年完成予定の関越道上越線松井田ICからは15分で到着、東京から約80分でティーアップが可能となります。

新茨城カントリークラブ

1.倶楽部名　新茨城カントリークラブ
　住所　茨城県那珂郡緒川村国長2408-1
　電話　02955-6-2311
2.開場年月日　昭和49年11月11日
3.理事長名　池田宣政　明治37年7月1日生
　倶楽部代表者　野津　喬
4.倶楽部分科委員長名
　キャプテン　　　　　　太田　浩
　ハンディキャップ委員長　井上晴之
　競技委員長　　　　　　池田隆政
　エチケット委員長　　　土田功一
5.支配人名　岡田良夫　昭和23年7月12日生
6.倶楽部概要

広々とした御前山と那珂川の大自然に恵まれ、水と緑の調和を図った27ホールズの新茨城カントリークラブ。桜・梅・楓の各コースとも、雄大かつそれぞれ趣の異ったコース造りがなされております。また交通事情も常盤高速道水戸インター経由で都心より100分。メンバー主体の運営を常に心掛け、ご満足の頂けるクラブライフを目指し努力致しております。

タイホーカントリークラブ

1.倶楽部名　タイホーカントリークラブ
　住所　茨城県笠間市福原301
　電話　02967-4-4561
2.開場年月日　昭和60年10月12日
3.理事長名　小坂田弘三　大正14年6月28日生
　倶楽部代表者　小坂田弘三
4.倶楽部分科委員長名
　競技委員長　　　　　木村一夫
　ハンディキャップ委員長　加藤　清
　ハウス食堂委員長　　　中山善郎
　プロキャディ委員長　　山田浩蔵
　管理委員長　　　　　　寺木清次
5.支配人　大沢勇夫　昭和6年1月23日生
6.倶楽部概要

茨城県笠間市の丘陵地に位置し、東京から約80分、国道50号線沿いに造られた18ホールのコースです。景観のよさは格別で、クラブハウス、ティグランド、フェアウェー、どこからでも遠景の山並みが素晴らしい借景となって見られるのが、第一の特徴です。

コースは、南斜面で構成され、全ホールを通じて急な上り坂のないゆるやかなアンジュレーションになる様設計し、勾配は最大4%以下におさえてあるので、いつのまにか18ホールが終わります。

また、セカンドショットはグリーンがよく見え、特に100m以内のアプローチはピンの根元が見える様にしました。

コース攻略は2番ホール（横に40万屯のダムが造成される）及12番ホールの豪快な打ち下しと、計算されたアプローチが要求され、スコアメイクの鍵となります。会員主体の運営を心掛けており、メンバーは、家族的な雰囲気を楽しむことのできる本格的なコースです。

「KGAニュースNO.20」刊行以降に開催されました、理事会・各分科委員会議事録を掲載いたします。

62年度　第3回理事会議事録

日　時　昭和62年10月6日(火)　正午
場　所　ホテルニューオータニ「桂の間」
出席者　細川理事長、武内、中井副理事長、相山、木村、古茶、古賀、小山、松野、松浦、斎藤、佐藤、田中　各常務理事
海老原、北村、小林、小宮山、桑原、松本、蜜沢、森井、村松、大倉、大坪、佐久目、竹井、山本、吉沢　各理事
岩本、三嶋　監事

——決 議 事 項——

細川理事長、議長となり、午後12時30分開会を宣し、順次、議題審議を行なった。

1．新規加盟申請倶楽部承認の件
入会審査委員会より上程された下記4倶楽部の加盟について慎重審議の結果、これを承認した。
①新茨城カントリークラブ（茨城）
②湯沢パークゴルフ倶楽部（新潟）
③妙義スプリングスカントリー倶楽部（群馬）
④タイホーカントリークラブ（茨城）
上記4倶楽部加盟によって、加盟倶楽部総数は370となった。

2．昭和63年度連盟主催競技開催コースおよび日程の件
事務局長より別紙日程表の報告・説明があり、これを確認した。※23頁参照
なお、ジュニア選手権決勝競技の開催コースについては、コース選定委員会において、武蔵カントリークラブを予定し、理事長名にて依頼書を発送したが、当倶楽部理事会にて以下の理由により、受諾しかねるとの回答があった。
①58年度より62年度までの5年間は開催を約していた。ジュニア競技を開催するにふさわしい倶楽部が他にもあると思われるので、今年度で辞退したい。
②打ち放し練習場にて、近隣の民家、工場に打ち込み、ガラスを破損する不祥事があった。ウッド使用を禁止する注意をしたにもかかわらず、一部選手がこれを無視し、住民より抗議、所轄警察署より厳重注意された。かかるトラブルをさけるためには、フェンスの増設が必要であり、多大な経費を要する。約束の5年過ぎた現在、それまでして引き受ける必要があるかどうか疑問である。
これに対し、斎藤ジュニア委員長より「"打ち込み事件"については、競技委員長として衷心よりおわび申し上げる。ただ、ジュニアゴルファーにとって、武蔵カントリークラブの決勝競技に出場することはあこがれであり、はげみになっている。委員長として再度ご依頼したい。」との発言があった。

3．後援競技承認の件
次記競技の後援を承認した。
①第9回首都圏アマチュアゴルフ選手権大会
主管　上毛新聞社
主催　茨城新聞社・埼玉新聞社・神奈川新聞社・千葉日報社・下野新聞社・共同通信社
期日　62年10月22日(木)
会場　水上高原ゴルフ場
②第6回茨城県社会人アマチュアゴルフ選手権大会
主催　茨城新聞社
期日　62年11月26日(木)…決勝
会場　水戸グリーンカントリークラブ

4．分科委員会報告
事務局長より、机上配布のKGAニュース第20号に基づき、これまで開催された常務理事会、各分科委員会の報告がなされた。

5．競技報告
事務局長より、本理事会まで開催された連盟主催競技の報告がなされた。※4、8頁参照

6．'87関東オープン中間報告
武内準備委員長より次記の報告がなされ、これを承認した。
開催コースである総武カントリークラブの多大なご尽力と協力により、成功裡に終了することができた。
ただ、悪天候のため、予選2日、決勝1日の3日間の競技となり、そのため、当日入場者が前年度より約2,000名減少した。しかし、約4,000万円の剰余金が出ると予想されるので、精算後、コース使用料として2,000万円お支払いできるものと思われる。
尚、小宮山理事（総武カントリークラブ理事長）より、加盟倶楽部の協力に対して謝辞を述べられた。

7．日本ゴルフ協会法人格取得の件および体協加盟の件
武内副理事長より以下の報告、提案がなされ、全員賛意を示しこれを承認した。
10月1日付をもって、法人化を承認する旨の回答が文部省担当官より連絡があった。
かねての方針どおり、組織は現行のままとするが、新たに個人会員への門戸を開くことになる。
また、評議員を選任しなければならないが、全体として30名を予定しており、関東ゴルフ連盟から10名を選任することになった。10名については理事長及び、常務理事会に一任していただき、10月22日のJGA理事会に推挙したい。
また、この問題と体協加盟問題とは、本来別個の問題であるが、混同してうけとめられたきらいがある。
法人格取得によって体協加盟が一段と有利になったことは事実であるが、この件に関する昨今の各都県の状況は憂慮すべきものがある。ゴルフ界とはあまり縁のない人たちが集まり、県体協加盟を策しているようである。
各県の理事諸氏のご協力を得て、既定方針どおり事を進めたい。

以上をもって、上程された議事の審議を終了、13時40分、議長閉会を宣した。

62年度　第4回コース・レート委員会

日　時　62年11月2日(月)正午
場　所　JGA会議室
出席者　尾関委員長、新井副委員長、内藤、中野、岡田　各委員

——決 議 事 項——

1．金砂郷カントリークラブ以下9倶楽部のコース・レート査定の件
上記倶楽部のコース・レートについて、配布の資料をもとに次のように決定した。

(1)金砂郷カントリークラブ
(イ)ベントグリーン
バック・ティ　72.2
レギュラー・ティ　69.3

(2)湯沢パークゴルフクラブ
(イ)メイングリーン
バック・ティ　70.0
レギュラー・ティ　68.5
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　68.7
レギュラー・ティ　67.3

(3)フォレストゴルフクラブ
西コース
(イ)高麗グリーン
バック・ティ　71.2
レギュラー・ティ　69.1
(ロ)ベントグリーン
バック・ティ　70.5
レギュラー・ティ　68.5
東コース
(イ)レフト（ベントグリーン）
バック・ティ　71.3
レギュラー・ティ　68.9
(ロ)ライト（高麗グリーン）
バック・ティ　72.3
レギュラー・ティ　69.6

(4)ザ ナショナルカントリークラブ
(イ)ベントグリーン
バック・ティ　71.4
レギュラー・ティ　69.2

(5)富士河口湖ゴルフクラブ
(イ)ベントグリーン
バック・ティ　72.4
レギュラー・ティ　70.3

(6)うるぎハイランドカントリークラブ
(イ)ベントグリーン

理事会・委員会

バック・ティ　69.1
レギュラー・ティ　67.3

(7)ノーザンカントリークラブ錦ヶ原ゴルフ場

れんげ草
(イ)メイングリーン
バック・ティ　33.7
レギュラー・ティ　33.0
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　33.4
レギュラー・ティ　32.7

れんげ草・さくら草 (OUT)
(イ)メイングリーン
バック・ティ　69.5
レギュラー・ティ　68.0
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　69.1
レギュラー・ティ　67.7

れんげ草・さくら草 (IN)
(イ)メイングリーン
バック・ティ　69.5
レギュラー・ティ　68.1
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　69.2
レギュラー・ティ　67.9

れんげ草・なの花 (OUT)
(イ)メイングリーン
バック・ティ　68.7
レギュラー・ティ　67.4
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　68.4
レギュラー・ティ　67.4

れんげ草・なの花 (IN)
(イ)メイングリーン
バック・ティ　69.9
レギュラー・ティ　68.7
(ロ)サブグリーン
バック・ティ　69.6
レギュラー・ティ　68.2

(8)新潟サンライズゴルフコース
(イ)ベントグリーン
東・中
バック・ティ　72.6
レギュラー・ティ　68.6
東・西
バック・ティ　71.6
レギュラー・ティ　68.5
中・西
バック・ティ　71.8
レギュラー・ティ　68.5

机上査定
(1)戸塚カントリー倶楽部
(イ)高麗グリーン
バック・ティ　71.1
レギュラー・ティ　69.8
(ロ)ベントグリーン
バック・ティ　69.7
レギュラー・ティ　68.7

2．62年度コース・レート査定スケジュールの件

11月2日現在、申請のあった倶楽部について、別紙のスケジュール表通り決定した。

また、日立高鈴ゴルフ倶楽部以下の倶楽部については、来春（3月下旬）より行なうことを確認した。

尚、今年度は、32コースの査定を行なった。

62年度コース・レート査定予定表

倶楽部名	査定日
サンレイクカントリークラブ	11/10(火)
パークレイカントリークラブ	11/11(水)
香木原カントリークラブ	11/16(月)
上総富士ゴルフクラブ	11/17(火)
南千葉ゴルフ倶楽部	11/27(金)
新茨城カントリークラブ	12/1(火)
東ノ宮カントリークラブ	12/9(水)
勝浦東急ゴルフコース	12/15(火)
埼玉国際ゴルフ倶楽部	12/21(月)
日立高鈴ゴルフ倶楽部	来　春
柏崎カントリークラブ	来　春
東通ロイヤルカントリークラブ	来　春
日本海カントリークラブ	来　春

62年度　第5回月例委員会議事録

日　時　62年9月11日(金)正午
場　所　JGA会議室
出席者　松野委員長、山﨑、川島副委員長、岡野、岡田、嶋田、大久保　各委員

——討議及び決議事項——

1．8月度月例競技報告及び総括

(男子) 川島副委員長より以下の報告及び総括がなされた。

コース・コンディションはきわめて良好であった。

そのため、プレーの進行は順調、タイムテーブルより速くホールアウトした。

ただ、残暑の炎天、無風のプレーだったため、日射病にやられた選手がおり、36ホール・ストローク・プレーに対する日頃の鍛練、節制が望まれた。

参加者数他は以下の通り

開　催　日	昭和62年8月21日(金)
開催コース	我孫子ゴルフ倶楽部
エントリー数	82名
出場者数	75名
欠席者(事前)	4名
〃　(当日)	3名
棄権者	野々下稔（栃木）日射病のため
失格者	初見為治（大利根）過少申告
	石井　幹（千葉スプリングス）自署サイン洩れ

(女子) 大久保委員より以下の報告及び総括がなされた。

開催コースの多大な協力により、16時40分27ホールを終了した。午前中スロープレーが目立ち、委員が注意、すぐに速まった。

エントリー数他は以下の通り

開　催　日	昭和62年8月12日(水)
開催コース	鎌ヶ谷カントリークラブ
エントリー数	64名
出場者数	62名
欠席者(事前)	1名
〃　(当日)	1名
棄権者・失格者	無

2．62年9月度月例出場資格者確認の件

男子461名・女子175名

上記有資格者数を確認した。

3．9月のテーマ

・プレーの迅速化

・ティ・グラウンドの前方を横切らない

4．63年度月例競技開催コース・日程について

別紙の通り確認し、開催コースに依頼状を事務局より発送することにした。※23頁参照

5．夏季（6～8月）のプレーのホール数について

前回委員会にて、女子については来年度より18ホール・ストローク・プレーとすることを確認したが、諸般の事情を考え、来年度は男女とも現状のままとし、64年度よりどうするか、今後の課題とすることを確認した。

62年度　第6回月例競技委員会議事録

日　時　昭和62年10月12日(月)　正午
場　所　JGA会議室
出席者　松野委員長、山﨑副委員長、松岡、岡田、大久保、岡野、嶋田　各委員

——討議及び決議事項——

1．9月度月例競技報告及び総括

山﨑副委員長より下記の報告がなされた。

9月にしては気温が低く、すずしい天気であった。しかしプレーヤーにとっては絶好のゴルフ日和であった。雨を予想したピンポジションであったため、やや難しく、グリーン上での時間がとられた。今月のテーマは、各選手遵守していた。

エントリー数は以下の通り

開　催　日	昭和62年9月28日(月)
開催コース	日高カントリークラブ
エントリー	149名(男子106名、女子43名)
欠 席 者 数	10名（男子9名、女子1名）
無 断 欠 席	0名
出 場 者 数	139名（男子97名、女子42名）
棄権者・失格者	0名

2．62年度10月月例出場有資格者確認の件

男子　470名　　女子　180名

上記を確認した。

3．10月のテーマ
・ボール・マークの修復
・前方のティ・グラウンドを横切らない
尚、ミーティングにおいて、「今月のテーマ」についての講評も行なうこととした。

4．「申し込み締め切り日」の徹底について
事務局より上記の件について、以下の問題提起がなされた。
昨今、選手、倶楽部とも、申し込み締切り日を守らないケースが多くなってきている。締切り日は「当日消印有効」ではなく、当日17時必着になっているにもかかわらず、電話、ファックスでの申込みが多くなってきている。事務局として例外として便宜をはかっているが、チェック、ドロー準備等の作業からいってこのまま放置はできない。
来年度の実施規定、申込書を送付する際にも注意を喚起するが、ミーティングにおいても一言ふれてほしい。
上記の事務局要請を全員了承した。

5．参加費値上げについて
松野委員長より以下の発言、問題提起がなされ、全員賛意を示した。
今年度も会費値上げが論議されたが据え置きとなった。しかし、諸般の事情を考えると、明年度は若干のアップをせざるを得ないと思う。
額等については、今後の委員会で論議し、理事会に上程することとしたい。
※50年度まで3,000円、パーティー費500円、51年度より5,000円、但し、51年度は他にパーティー費500円。

62年度　第7回月例競技委員会議事録

日　時　昭和62年11月4日(水)　正午
場　所　JGA会議室
出席者　松野委員長、山﨑・川島副委員長、松岡、大久保、岡野、嶋田　各委員

——討議及び決議事項——

1．10月度月例競技報告及び総括
山﨑副委員長より下記の報告がなされた。
27ホールを使用しての競技となったため、プレーの進行も早く、14時20分に全員ホール・アウトした。また、新築となった広いクラブハウスのため、ミーティングとパーティーを別々の部屋で可能となり、大好評であった。
エントリー数他は以下のとうり
開　催　日　昭和62年10月23日(金)
開催コース　江戸崎カントリー倶楽部
エントリー　112名（男子80名、女子32名）
欠 席 者 数　9名（男子8名、女子1名）
無 断 欠 席　0名
出 場 者 数　103名（男子72名、女子31名）
科　罰　者　1名（遅刻1名）　失格者 0名

2．62年度11月月例出場有資格者確認の件
男子　481名　　女子　192名
上記を確認した。

3．11月のテーマ
・ボール・マークの修復　・プレーの迅速化

4．実施規定について
51年度より据置になっている現行5,000円の競技参加費について、検討、討議の結果、これを1,000円値上げすることに合意、理事会に上程することとした。

5．競技開催日について
10月度競技の参加者は例月になく少なかった。
これはサンケイスポーツ（女子）、スポーツニッポン新聞社（男子）主催の競技と重なったためである。新聞社、テレビ局等主催者に日程表を送付する際には調整、協力方をお願いする一文を添えることとした。

62年度　第3回広報委員会議事録

日　時　昭和62年10月8日(木)
場　所　JGA会議室
出席者　木村委員長、笠原、杉山　各委員

——討議及び決議事項——

1．「KGAニュースNO.20」総括
全員、前号に比べ、レイアウト・内容とも格段とよくなった、このレベルで続刊されたい、との総括で一致した。
なお、エチケットポスターについても徐々によくなっているとの評価で一致した。

2．次号（今NO.21号）編集企画
事務局案どおりの内容で、12月1日発行することを決定した。

62年度　第3回入会審査委員会議事録

日　時　昭和62年10月6日(火)午前11時30分
場　所　ホテルニューオータニ「桂の間」
出席者　細川理事長、武内委員長、木村副委員長、相山、小山、松野、松浦、斎藤、田中、竹井　各委員
陪席：古賀常務理事、古茶常務理事、海老原理事（加盟申請倶楽部推薦理事）
武内委員長、11時30分開会を宣し、議題審議を行なった。

——決　議　事　項——

1．新規加盟申請倶楽部審査の件
10月6日現在、加盟申請のあった下記4倶楽部について、慎重審議の結果、これを承認、理事会に上程することを決定した。
①新茨城カントリークラブ（茨城）
②湯沢パークゴルフ倶楽部（新潟）
③妙義スプリングスカントリー倶楽部（群馬）
④タイホーカントリークラブ（茨城）
以上をもって議事の審議を終了、12時、議長閉会を宣した。

昭和63年度 関東ゴルフ連盟競技 日程表

※No.20号にも掲載いたしましたが、その後一部に変更がありましたので、再度お知らせいたします。

開催日	競技名		開催コース
5月9日(月)	関東女子選手権予選	第1ブロック	芙蓉
5月12日(木)		第2ブロック	ダイヤグリーン
5月20日(金)	関東アマチュア選手権予選	第1ブロック	東京よみうり
5月16日(月)		第2ブロック	高坂
5月17日(火)		第3ブロック	横浜
5月20日(金)		第4ブロック	真名
5月17日(火)		第5ブロック	日光
5月24日(火)	関東女子選手権決勝		白鳳
5月25日(水)			
6月3日(金)	関東倶楽部対抗予選	東京地区	立川国際
5月31日(火)		埼玉地区	熊谷
5月30日(日)		千葉地区	房総
5月31日(火)		神奈川地区	東名厚木
5月31日(火)		茨城 第1地区	桜
5月30日(月)		茨城 第2地区	日立
5月30日(月)		栃木 第1地区	杉ノ郷
5月30日(月)		栃木 第2地区	あさひケ丘
5月26日(木)		群馬地区	ノーザン赤城
5月31日(火)		静岡地区	静岡（浜岡）
5月27日(金)		長野地区	松本

開催日	競技名		開催コース
62年9月11日(金)	関東倶楽部対抗予選	新潟地区	大新潟
6月14日(火)	関東アマチュア選手権決勝		中山
6月15日(水)			
6月16日(木)			
6月28日(火)	関東倶楽部対抗決勝		戸塚
7月26日(火)	関東ジュニア選手権予選		ノーザン錦ケ原
7月27日(水)			
7月28日(木)			
8月4日(木)	関東ジュニア選手権決勝		武蔵（笹井）
8月5日(金)			
9月1日(木)	関東オープン選手権		江戸崎
9月2日(金)			
9月3日(土)			
9月4日(日)			
9月6日(火)	関東シニア選手権予選	第1ブロック	沼津
9月5日(月)		第2ブロック	桜ケ丘
9月5日(月)		第3ブロック	藤ケ谷
9月21日(水)	関東シニア選手権決勝		千葉（梅郷）
9月22日(木)			
10月18日(火)	関東グランド・シニア選手権		霞ケ関

昭和63年度 関東ゴルフ連盟月例競技 日程表

月	開催日	開催コース	申込締切（2週間前）
1	1月26日(火)	程ケ谷	1月12日(火)
2	2月25日(木)	筑波	2月10日(水)
3	3月25日(金)	高坂	3月11日(木)
4	4月18日(月)	大利根	4月4日(月)
6	（男子）6月22日(水)	東京	6月8日(水)
	（女子）6月24日(金)	桜ケ丘	6月10日(金)
7	（女子）7月11日(月)	東京国際	6月27日(月)
	（男子）7月15日(金)	江戸崎	7月1日(金)

月	開催日	開催コース	申込締切（2週間前）
8	（女子）8月24日(水)	鎌ケ谷	8月10日(水)
	（男子）8月19日(金)	我孫子	8月5日
9	9日26日(月)	日高	9月12日(月)
10	10月28日(金)	茨城	10月14日(金)
11	11月11日(金)	武蔵（笹井）	10月28日(金)
12	12月6日(火)	龍ケ崎	11月22日(火)

月例競技成績表

(62年９月月例)

(男子)参加97名　９月28日(月) 於:日高カントリークラブ

順位	氏名	クラブ	東	西	合計
1	阪田哲男	袖ケ浦	36	37	73
2	小久保武夫	藤岡	37	37	74
2	加藤雅成	千葉国際	38	36	74
4	宮　辰夫	習志野	38	37	75
4	中野弘治	美蓉	38	37	75
4	岡田光史	鶴舞	38	37	75
4	小林勝美	立川国際	39	36	75

コース・レート　71.7

(女子)参加42名　９月28日(月) 於:日高カントリークラブ

順位	氏名	クラブ	東	西	合計
1	三木恵美子	富士	40	39	79
2	小笠原みさ子	大厚木	39	42	81
3	青木英子	船橋	42	39	81

コース・レート　69.9

(62年10月月例)

(男子)参加72名　10月23日(金) 於:江戸崎カントリー倶楽部

順位	氏名	クラブ	東	西	合計
1	室伏健二	東名	35	36	71
1	森永正隆	武蔵	36	35	71
3	藤田雅也	岡部チサン	36	36	72
4	額賀義朗	船橋	38	35	73
4	竹林　守	浅見	38	35	73
4	高梨信一	桜	36	37	73

コース・レート　71.7

●室伏・森永両氏のプレーオフは11月月例にて行います。

(女子)参加31名　10月23日(金) 於:江戸崎カントリー倶楽部

順位	氏名	クラブ	東	西	合計
1	渡辺恵子	高根	37	36	73
2	加藤勝栄	平塚富士見	38	39	77
3	須賀みお	浦和	39	39	78

コース・レート　69.6

お知らせ

理事長の変更

●ニューセント・アンドリュースゴルフクラブジャパン
(新) 醍醐　隆
(旧) 高原　宏

倶楽部代表者の変更

●ニューセント・アンドリュースゴルフクラブジャパン
(新) 宮田　光秀
(旧) 高瀬　正二
(新) 醍醐　隆
(旧) 高原　宏

●長竹カントリークラブ
(新) 中嶋　弘
(旧) 貝島　弘人

●相武カントリー倶楽部
(新) 郷司　正弘
(旧) 宮内　俊之

事務局からのお願い

昨今、競技出場申込、取消しに関するトラブルが多くなっております。最終責任は申込者本人にあるわけですが、手続としてどの競技も、所属倶楽部を通じて行うように定められております。

また、電話、Faxでの申込みは原則として認めておりません。これまで、事務局としてできる限り便宜をはかってまいりましたが、申込受付後のチェック(ハンディキャップ、有資格等)、ドローの準備、その印刷、校正、発送等に支障をきたすようになってまいりました。

参加者、所属倶楽部は、締切日17時（当日消印有効ではありません）まで、事務局に必着するように、ご協力下さいますようお願いいたします。

〈訂正〉

KGAニュースNo.19において、平塚富士見カントリークラブの理事長の変更（(旧)浅川正治氏→(新)太田和夫氏）をお知らせいたしましたが、倶楽部代表者の変更の誤りでした。理事長は黒川利雄氏で変更はございません。

また、秩父国際カントリークラブは、理事長の変更同様、倶楽部代表者も変更（(旧)古田正則→(新)大本百稔）いたしましたので、ここにお詫びして訂正させていただきます。

昭和62年12月１日発行　KGAニュースNo.21
発行所　関東ゴルフ連盟　東京都千代田区丸の内1-1-1　TEL.(03)215-0511　発行人　細川護貞　編集　広報委員会